

AWARD

Since
1968

2023
会報誌「アワード」
vol.2

公益財団法人 日本プロスポーツ協会



スペシャル対談

井上尚弥 × 国枝慎吾

〔プロボクシング〕

〔プロ車いすテニス〕

NHK



©NHK-dwarf

あなたの手に

NHK+

NHKプラスはインターネットで
地上波放送番組を視聴できる
動画サービスです

<https://plus.nhk.jp/>



SPORTS NHKスポーツ番組
総合情報サイト

<https://www3.nhk.or.jp/sports/>

夢と感動はあなたの受信料から

各種
お問い合わせ先
電話番号

放送受信契約のお申し込み・転居などのご連絡 **フリーダイヤル 0120-151515** 午前9時～午後6時
(土・日・祝日も受付)
放送受信料に関するお問い合わせ **ナビダイヤル 0570-077-077** 午前9時～午後6時
(土・日・祝日も受付)
番組についてのお問い合わせ **ナビダイヤル 0570-066-066** 午前9時～午後8時
(土・日・祝日も受付)

※番号のおかけ間違いにご注意ください。

受信料のお手続きは
インターネットで
いつでもお手続きができます！





Contents

公益財団法人 日本プロスポーツ協会の概要	04
会長挨拶 麻生 太郎	05
内閣総理大臣杯日本プロスポーツ大賞 <u>選考要項</u>	06
歴代日本プロスポーツ大賞 授賞式	07
歴代大賞受賞者	08
歴代殊勲賞受賞者	09
第52回 日本プロスポーツ大賞授賞式	
殊勲賞・NHK賞授賞式	10
トピックス	11
内閣総理大臣杯 大賞	12
スポーツ功労賞 文部科学大臣顕彰	13
スペシャル対談	
プロボクシング 井上尚弥 × プロ車いすテニス 国枝慎吾	16
プロサーファー 五十嵐カノア <u>スペシャルインタビュー</u>	22
 Part 2 : 1975~1977 日本プロスポーツ大賞の歴史	25

公益財団法人日本プロスポーツ協会会報誌AWARD

発行日：2023年 12月 20日

発行元：公益財団法人日本プロスポーツ協会

THE JAPAN PROFESSIONAL SPORTS ASSOCIATION (略称 J.P.S.A)

発行人：秋山 政徳

編集人：倉田 勝彦

- 所在地：東京都千代田区麹町1-3-23 麹町1丁目3番地ビル9階
- 電話番号：03-6272-4102
- FAX番号：03-6272-4889
- URL：http://jpsa.jp
- E.Mail：info@jpsa.jp



日本プロスポーツ協会では、SDGs(持続可能な開発目標)17項目のうち、8つの目標に尽力、貢献しております。
スポーツによってSDGs の目標達成に貢献するため2018年12月に定められた「Sports for Climate Action Framework」は、気候変動問題に対する枠組みです。

IOC、FIFA、東京2020組織委員会などの団体が署名し、スポーツによってSDGs の目標達成を目指す世界的な活動として注目されており、本協会もその取り組みに協力しています。
また、本会報誌「AWARD」においても環境へ配慮した資材調達などから持続可能な社会の実現に貢献しております。



このラベルは、国際基準を満たす「適切な森林管理」をされた認証林からの木材やその他、リスクの低い原材料から作られた製品につけられるマークです。
Forest Stewardship Council®(FSC®:森林管理協議会)は、責任ある森林管理を世界に普及させることを目的とする国際的な非営利団体です。

公益財団法人日本プロスポーツ協会の概要

設立沿革

本法人は、我国におけるプロスポーツ界の健全な発展と社会貢献及び国民のプロスポーツへの関心を高める目的として、1968年に日本プロスポーツ会議として発足しました。その後1990年に財団法人化を行い、2014年4月に公益財団法人に認定され、設立より52年間の歴史を有しています。主な事業活動として、「内閣総理大臣杯日本プロスポーツ大賞」「功労者文部大臣顕彰（文科省）」、そして「NHK杯（日本放送協会）」等、表彰・国家顕彰の授与式を主催してまいりました。

目的

プロスポーツの水準の向上と発展を図ることにより、国民の余暇活動の充実に資するとともに、プロスポーツ選手の社会的地位の向上を図り、並びに国民のスポーツへの関心を高め、もって我が国のスポーツの発展に寄与する。

事業内容

- プロスポーツの振興発展のための調査研究
- プロスポーツの進行に功績のあった者に対する表彰
- プロスポーツに関する内外情報の収集、提供及び出版物の刊行、その他の広報
- プロスポーツに関する国際交流の推進
- プロスポーツに関する講習会および研修会の開催

日本プロスポーツ会議及び日本プロスポーツ協会 歴代会長



初代
八田 一郎



2代目
椎名 悦三郎



3代目
中曽根 康弘



4代目
櫻内 義雄



5代目
柳川 覚治



6代目
森 喜朗



7代目
島村 宜伸

会長挨拶



公益財団法人 日本プロスポーツ協会
会長

麻生 太郎

平素より、プロスポーツ関係者の皆様におかれましては、本協会に対し、格別なるご支援・ご協力をいただいておりますこと、心より厚く御礼申し上げます。

世界中で猛威をふるった新型コロナウイルス感染症は、プロスポーツ界にも開催中止や無観客での開催など、多大なる影響を与えました。

しかしようやく今年2023年、観客の皆様が会場に足を運び、歓声をあげ、熱狂し、感動できる、本来のスポーツの姿が戻ってまいりました。

加えて今年は、世界各国で大きな大会が開催され、日本人アスリートが様々な競技で活躍し、多くの人に喜びと感動をもたらしました。選手が奮闘する姿を見ていると、いかなる困難にも力強く立ち向かうことの重要性を改めて感じることが出来ます。また、選手、ファン、関係者が一体となりスポーツの力を最大限に発揮する道筋は、困難の多い世界を希望のある世界へと導くための一助となるのではないのでしょうか。

日本プロスポーツ大賞の式典では、その年に活躍した選手や、永くスポーツの発展に貢献した選手を讃え、社会に公表することで、選手本人の栄誉と修養に寄与してきていると考えております。

本協会の運営に関わる諸官庁、内閣府、文科省および経済界、スポーツ界の皆様におかれましては、倍旧のご指導ご支援を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

スポーツが持つ力は無限です。本協会の活動がその発展の一角を担うことができるよう、全力で取り組んでまいります。

今後この炎を途絶えさせることなく、最善を尽くして参ります。

日本プロスポーツ大賞とは

我が国のプロスポーツ界の健全な発展ならびに振興に寄与することを目的として、1968年(昭和43年)の第1回日本プロスポーツ大賞より毎年開催されています。大賞受賞者には、国家的表彰として内閣総理大臣杯と賞状が授与されます。

選考要項

日本プロスポーツ大賞(1名)

当核年度1カ年にプロスポーツ界全般(日本プロスポーツ協会加盟団体が否かは問わない)を通じ、国籍を問わず、あらゆる意味で、最も貢献度の大きい業績を残したと認められる選手及び団体(チーム)に与えられる。本賞受賞者には、国家的表彰として内閣総理大臣杯と(公財)日本プロスポーツ協会会長杯(楯)と賞状、賞金が授与される。

殊勲賞(3名)

日本プロスポーツ大賞に次ぐ抜群の業績をたたえ得るもの。大賞と同様に選手及び団体(チーム)に限る。本賞受賞者には、(公財)日本プロスポーツ協会会長杯(楯)賞状、賞金が授与される。

最高新人賞(1名)

新人賞受賞者の中で、もっとも貢献度の大きい業績を残した選手に与えられる。楯と賞状、賞金が授与される。

新人賞(ダンスはペアで1名とする)

当該年度1カ年に新人として抜群の業績を残した選手に与えられる。楯と賞状、賞金が授与される。

功労賞(ダンスはペアで1名とする)

プロスポーツの発展に長年にわたり貢献した個人に与えられる。楯と賞状、賞金が授与される。

選出方法

日本プロスポーツ大賞・殊勲賞

東京運動記者クラブ加盟のテレビ、ラジオおよび新聞、通信社のスポーツ記者で構成される選考委員の投票に基づき、選考委員代表者立会いのもと選考した後に、理事会の承認を得て決定する。

特別賞・功労賞・新人賞

各加盟団体の推薦を得て、理事会の審議を経て、理事会により決定する。

最高新人賞

新人賞の中から、選考委員(大賞、殊勲賞の選考委員)の投票により選考後、理事会の承認を得て決定され、受賞者には、楯と賞状、賞金が授与されます。なお、同点得票の場合は、選考委員代表者および理事会メンバーで決定する。

* 大賞、殊勲賞、特別賞、最高新人賞は、本人に受賞の意志または授賞式に出席の意志がない場合は、当選無効とし次点の者に繰り上げられる。功労賞、新人賞も上記に準ずるが、客観的理由があり、やむを得ず欠席する場合は、代理人による受賞を認める。

選考委員

朝日新聞社
朝日新聞国際本部
アール・エフ・ラジオ日本
RKB毎日放送
茨城新聞社
AP通信社
英文毎日
NHK
FM東京
FMNACK5
神奈川新聞社
河北新報社
共同通信社
埼玉新聞社
産業経済新聞社
サンケイスポーツ
Jスポーツ
時事通信社
信濃毎日新聞

下野新聞社
ジャパン・ニュース
ジャパンタイムズ
上毛新聞社
スポーツニッポン新聞社
千葉テレビ放送
千葉日報社
中国新聞社
中日新聞(東京新聞)
中日新聞(東京中日スポーツ)
TBSFVE
TBSラジオ&コミュニケーションズ
TVKテレビ
デイリースポーツ
テレビ朝日
テレビ埼玉
テレビ東京
東京スポーツ新聞社
東京メトロポリタンテレビジョン

道新スポーツ
新潟日報社
西日本新聞社
日刊スポーツ新聞社
日経ラジオ社
日本経済新聞社
ニッポン放送
日本テレビ放送網
FOXSPORTSジャパン
フジテレビジョン
文化放送
報知新聞社
北海道新聞社
毎日新聞社
夕刊フジ
読売新聞社
WOWOW

以上55社(50音順・敬称略)



日本プロスポーツ大賞 授賞式



2022年 井上 尚弥(プロボクシング)



2018年 大谷 翔平(プロ野球)



2008/2009年 石川 遼(プロゴルフ) 写真：日刊スポーツ／アフロ



2012年 阿部 慎之助(プロ野球)



2013年 田中 将大(プロ野球)



2010年 白鵬 翔(大相撲)



大賞 歴代受賞者

1968年(昭和43年)	西城 正三(プロボクシング)
1969年(昭和44年)	読売ジャイアンツ(プロ野球)
1970年(昭和45年)	大鵬 幸喜(大相撲)
1971年(昭和46年)	長嶋 茂雄(プロ野球)
1972年(昭和47年)	松本 勝明(自転車競技)
1973年(昭和48年)	沢村 忠(キックボクシング)
1974年(昭和49年)	王 貞治(プロ野球)
1975年(昭和50年)	広島東洋カープ(プロ野球)
1976年(昭和51年)	王 貞治(プロ野球)
1977年(昭和52年)	王 貞治(プロ野球)
1978年(昭和53年)	ヤクルトスワローズ(プロ野球)
1979年(昭和54年)	具志堅 用高(プロボクシング)
1980年(昭和55年)	具志堅 用高(プロボクシング)
1981年(昭和56年)	中野 浩一(自転車競技)
1982年(昭和57年)	落合 博満(プロ野球)
1983年(昭和58年)	広岡 達朗(プロ野球)
1984年(昭和59年)	衣笠 祥雄(プロ野球)
1985年(昭和60年)	ランディー・バース(プロ野球)
1986年(昭和61年)	落合 博満(プロ野球)
1987年(昭和62年)	岡本 綾子(女子プロゴルフ)
1988年(昭和63年)	千代の富士 貢(大相撲)
1989年(平成元年)	千代の富士 貢(大相撲)
1990年(平成2年)	野茂 英雄(プロ野球)
1991年(平成3年)	辰吉 丈一郎(プロボクシング)
1992年(平成4年)	貴ノ花 光司(大相撲)
1993年(平成5年)	三浦 知良(サッカー)

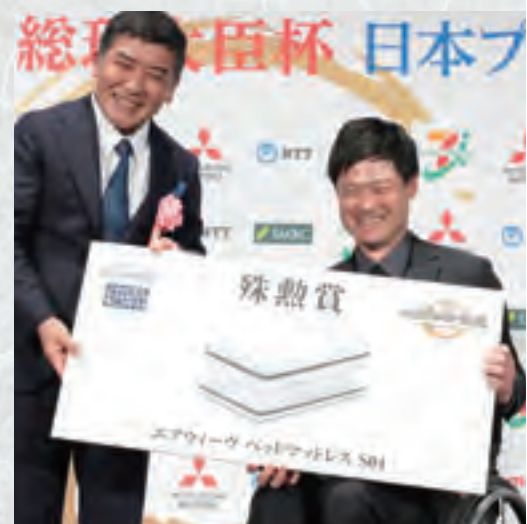
1994年(平成6年)	イチロー(プロ野球)
1995年(平成7年)	イチロー(プロ野球)
1996年(平成8年)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)
1997年(平成9年)	中田 英寿(サッカー)
1998年(平成10年)	佐々木 主浩(プロ野球)
1999年(平成11年)	松坂 大輔(プロ野球)
2000年(平成12年)	松井 秀喜(プロ野球)
2001年(平成13年)	イチロー(プロ野球)
2002年(平成14年)	2002FIFAワールドカップ日本選手団(サッカー)
2003年(平成15年)	松井 秀喜(プロ野球)
2004年(平成16年)	朝青龍 明德(大相撲)
2005年(平成17年)	朝青龍 明德(大相撲)
2006年(平成18年)	ワールド・ベースボール・クラシック日本代表(プロ野球)
2007年(平成19年)	浦和レッドダイヤモンズ(Jリーグ)
2008年(平成20年)	石川 遼(男子プロゴルフ)
2009年(平成21年)	石川 遼(男子プロゴルフ)
2010年(平成22年)	白鵬 翔(大相撲)
2011年(平成23年)	なでしこジャパン(サッカー)
2012年(平成24年)	阿部 慎之助(プロ野球)
2013年(平成25年)	田中 将大(プロ野球)
2014年(平成26年)	錦織 圭(プロテニス)
2015年(平成27年)	ラグビー日本代表(ラグビー)
2016年(平成28年)	大谷 翔平(プロ野球)
2017年(平成29年)	福岡ソフトバンクホークス(プロ野球)
2018年(平成30年)	大谷 翔平(プロ野球)
2022年(令和4年)	井上 尚弥(プロボクシング)



殊勲賞 歴代受賞者

1968年(昭和43年)	玉の海 正夫(大相撲)	江夏 豊(プロ野球)	沢村 忠(キックボクシング)
1969年(昭和44年)	金田 正一(プロ野球)	小林 弘(プロボクシング)	清国 忠雄(大相撲)
1970年(昭和45年)	三浦 雄一郎(プロスキー)	小林 弘(プロボクシング)	中山 律子(ボウリング)
1971年(昭和46年)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)	大場 政夫(プロボクシング)	長池 徳二(プロ野球)
1972年(昭和47年)	堀内 恒夫(プロ野球)	大場 政夫(プロボクシング)	坂口 征二(プロレス)
1973年(昭和48年)	輪島 功一(プロボクシング)	阿部 道(自転車競技)	王 貞治(プロ野球)
1974年(昭和49年)	柴田 国明(プロボクシング)	北の湖 敏満(大相撲)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)
1975年(昭和50年)	村上 隆(男子プロゴルフ)	沢松 和子(テニス)	ガッツ 石松(プロボクシング)
1976年(昭和51年)	具志堅 用高(プロボクシング)	樋口 久子(女子プロゴルフ)	阪急ブレーブス(プロ野球)
1977年(昭和52年)	樋口 久子(女子プロゴルフ)	具志堅 用高(プロボクシング)	阪急ブレーブス(プロ野球)
1978年(昭和53年)	具志堅 用高(プロボクシング)	青木 功(男子プロゴルフ)	北の湖 敏満(大相撲)
1979年(昭和54年)	青木 功(男子プロゴルフ)	中野 浩一(自転車競技)	三重ノ海 剛司(大相撲)
1980年(昭和55年)	青木 功(男子プロゴルフ)	木田 勇(プロ野球)	中野 浩一(自転車競技)
1981年(昭和56年)	千代の富士 貢(大相撲)	倉本 昌弘(男子プロゴルフ)	中島 常幸(男子プロゴルフ)
1982年(昭和57年)	広岡 達朗(プロ野球)	中野 浩一(自転車競技)	岡本 綾子(女子プロゴルフ)
1983年(昭和58年)	隆の里 俊英(大相撲)	中野 浩一(自転車競技)	中島 常幸(男子プロゴルフ)
1984年(昭和59年)	岡本 綾子(女子プロゴルフ)	中野 浩一(自転車競技)	渡辺 二郎(プロボクシング)
1985年(昭和60年)	千代の富士 貢(大相撲)	落合 博満(プロ野球)	中島 常幸(男子プロゴルフ)
1986年(昭和61年)	中野 浩一(自転車競技)	浜田 剛史(プロボクシング)	千代の富士 貢(大相撲)
1987年(昭和62年)	千代の富士 貢(大相撲)	森 祇晶(プロ野球)	衣笠 祥雄(プロ野球)
1988年(昭和63年)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)	門田 博光(プロ野球)	森 祇晶(プロ野球)
1989年(平成元年)	藤田 元司(プロ野球)	武 豊(中央競馬)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)
1990年(平成2年)	森 祇晶(プロ野球)	千代の富士 貢(大相撲)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)
1991年(平成3年)	貴花田 光司(大相撲)	尾崎 直道(男子プロゴルフ)	中嶋 悟(F1)
1992年(平成4年)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)	三浦 知良(サッカー)	石井 丈裕(プロ野球)
1993年(平成5年)	曙 太郎(大相撲)	古田 敦也(プロ野球)	ラモス 瑠偉(Jリーグ)
1994年(平成6年)	貴乃花 光司(大相撲)	薬師寺 保栄(プロボクシング)	南井 克巳(中央競馬)
1995年(平成7年)	尾崎 将司(男子プロゴルフ)	貴乃花 光司(大相撲)	伊達 公子(テニス)
1996年(平成8年)	イチロー(プロ野球)	松井 秀喜(プロ野球)	十文字 貴信(自転車競技)
1997年(平成9年)	辰吉 丈一郎(プロボクシング)	古田 敦也(プロ野球)	福岡 晃子(女子プロゴルフ)
1998年(平成10年)	中田 英寿(Jリーグ)	中山 雅史(Jリーグ)	イチロー(プロ野球)
1999年(平成11年)	武蔵丸 光洋(大相撲)	上原 浩治(プロ野球)	中田 英寿(Jリーグ)
2000年(平成12年)	佐々木 主浩(プロ野球)	中村 俊輔(Jリーグ)	畑山 隆則(プロボクシング)
2001年(平成13年)	タフィー・ローズ(プロ野球)	伊沢 利光(男子プロゴルフ)	古田 敦也(プロ野球)
2002年(平成14年)	松井 秀喜(プロ野球)	丸山 茂樹(男子プロゴルフ)	朝青龍 明德(大相撲)
2003年(平成15年)	阪神タイガース(プロ野球)	不動 裕理(女子プロゴルフ)	横浜F・マリノス(Jリーグ)
2004年(平成16年)	松中 信彦(プロ野球)	浦和レッドダイヤモンズ(Jリーグ)	不動 裕理(女子プロゴルフ)
2005年(平成17年)	井口 資仁(アメリカ大リーグ)	千葉ロッテマリーンズ(プロ野球)	ガンパ大阪(Jリーグ)
2006年(平成18年)	北海道日本ハムファイターズ(プロ野球)	朝青龍 明德(大相撲)	浦和レッドダイヤモンズ(Jリーグ)
2007年(平成19年)	中日ドラゴンズ(プロ野球)	武 豊(中央競馬)	松坂 大輔(プロ野球)
2008年(平成20年)	埼玉西武ライオンズ(プロ野球)	白鵬 翔(大相撲)	岩隈 久志(プロ野球)
2009年(平成21年)	原 辰徳(プロ野球)	ワールド・ベースボール・クラシック日本代表(プロ野球)	白鵬 翔(大相撲)
2010年(平成22年)	SAMURAI BLUE(サッカー日本代表)(サッカー)	千葉ロッテマリーンズ(プロ野球)	宮里 藍(女子プロゴルフ)
2011年(平成23年)	福岡ソフトバンクホークス(プロ野球)	柏レイソル(Jリーグ)	白鵬 翔(大相撲)
2012年(平成24年)	読売ジャイアンツ(プロ野球)	サンフレッチェ広島(Jリーグ)	なでしこジャパン(サッカー)
2013年(平成25年)	東北楽天ゴールデンイーグルス(プロ野球)	山中 慎介(プロボクシング)	白鵬 翔(大相撲)
2014年(平成26年)	白鵬 翔(大相撲)	福岡ソフトバンクホークス(プロ野球)	金子 千尋(プロ野球)
2015年(平成27年)	福岡ソフトバンクホークス(プロ野球)		
2016年(平成28年)	広島東洋カープ(プロ野球)	北海道日本ハムファイターズ(プロ野球)	
2017年(平成29年)	村田 諒太(プロボクシング)	デニス・サファテ(プロ野球)	佐藤 琢磨(インディカー・シリーズ)
2018年(平成30年)	井上 尚弥(プロボクシング)	サッカー日本代表(Jリーグ)	福岡ソフトバンクホークス(プロ野球)
2022年(令和4年)	国枝 慎吾(プロ車いすテニス)	大谷 翔平(大リーグ)	村上 宗隆(プロ野球)

殊勲賞・NHK賞





内閣総理大臣杯 大賞



スポーツ功労賞・文部科学大臣顕彰



道に縛られる 人生なんて、 つまらない。

ぬかるんだ泥道。

でこぼこの砂利道。

土砂降りの舗装路。

このクルマは道を選ばない。

だからドライバーの生き方は、
限りなく自由になる。

どこに行こうか。

どこまで行こうか。

いま、すべての路面が

あなたの冒険心を駆り立てる。

さあ。電動の、自由を。

自然と併走して、未来へ。



**MITSUBISHI
MOTORS**

Drive your Ambition

重量税
免税

○環境対応車普及促進税制に基づき、ご購入時の自動車重量税が免税となります。またグリーン化特例対象となるため、新車登録翌年度の自動車税が軽減されます。詳しくは販売会社にお問い合わせください。

www.mitsubishi-motors.co.jp

アウトランダー
PHEV
WEBサイトはこちら





OUTLANDER PHEV

○Photo:P ボディカラー:ホワイトダイヤモンド/ブラックマイカ(有料色) ○写真はイメージです。

充電マナーを守りましょう。

スピードは控えめに。エコドライブで環境にやさしく。後席もシートベルト。チャイルドシートも忘れずに。

＜国枝慎吾＞

ル対談

[プロ車いすテニス]

語り合うスポーツへの想い――

日本プロスポーツ大賞 受賞の喜びを活力に変え、 さらなる高みを目指す。

Special Dialogue

インタビュアー
笠井 信輔

●日本プロスポーツ大賞受賞おめでとうございます。
井上・国枝 ありがとうございます。

●まず国枝慎吾さん、日本プロスポーツ大賞殊勲賞・NHK賞を受賞されて、第一報をどういう形でお聞きになりましたか？

国枝 マネージャーから聞きました。2017年にも表彰していただいたのですが、この引退した年にまたいただけたことはすごく嬉しかったです。

●あなたが特に喜んでくれましたか？

国枝 今日一緒に来ている妻ですね。副賞もいただけるので（笑）、妻に渡したいと思います。

●井上尚弥さん、本年度の大賞を受賞というところで、どういう形でお聞きになりましたか？

井上 僕もマネージャーからです。僕自身もすごく嬉しかったですし、大橋会長をはじめ、プロボクシングの関係者の方々にすごく喜んでいただけたので、2022年の試合で結果が出てよかったなと改めて思いました。





井上尚弥 >

[プロボクシング]

スペシャ

— 世界を制したアスリートが

● 一番喜んでくれたのは？

井上 やっぱり大橋会長がすごく喜んでくれたのかなと思います。

● 2022年を振り返っていただきたいのですが、井上さんは六月にバンタム級統一王者になって、12月にはアジア人として初の4団体統一王者に輝きました。印象に残った試合や瞬間を教えてくださいませんか？

井上 やはりドネア戦ですね。自分の中でも一度戦っている相手とのリマッチだったので、気合いも入りましたし、内容でも

勝てたことが自分の中で一番インパクトの残る瞬間だったのかなと思います。

● 6月のドネア戦に勝利し、3団体統一王者になったその場で、4団体統一戦を12月にやると宣言されましたが、

井上 そうですね、自信もありましたし、バンタム級の体を作って筋肉も増えてきていたので、もうやるなら年内にやりたいなという気持ちがありました。

● 国枝さん、2023年1月に世界ランキング1位のまま引退表明をされました。

昨年2022年は引退を意識しながらのラストイヤーという気持ちだったのでしょうか？

国枝 そうですね。2021年の東京パラリンピックで獲得できた金メダルで、僕自身かなり燃え尽きました。この先、あの時以上の感動っていうものがもうないんじゃないかなと思います。1年戦っていましたが、それでもやっぱり残されていたウィンブルドンタイトルがあったので、そこだけは頑張るぞという思いでやって優勝できたので「もうこれでいいかな」と、コート上でチームメンバーと抱き合いながら

最初に出た言葉がそれでしたね。

●4大会で残すはウィンブルドンの優勝だけとなった中で、プレッシャーはなかったですか？

国枝 もちろん獲りたいタイトルであればあるほど緊張感がありましたけど、その緊張が良い方に自分自身を持っていくようにメンタルコントロールも駆使しな

がら大舞台に臨んでいくというのは、今まで何試合も経験してきたので、相手もウィンブルドンのタイトルが欲しい、でもメンタルのスキルは僕の方があってところで優位に立てるんじゃないかなって思いますね。

●お二方とも2023年は新しいチャレンジをする年ということになります。

まず井上さんはスーパードバンタム級への転向の年となります。抱負をお聞かせいただけますでしょうか。

井上 もちろんやるからには必ず勝ちたいなと思いますし、今まで以上のモチベーションを持って挑めると思います。

●ただ、体が大きくて重量のある相手を前にして、壁は高いという感じもありますが、いかがでしょう？

井上 そうですね。正直、自分自身今から4階級下のライトフライ級からスタートして、スーパードバンタム級に上げるとなると実質5階級目となるので、やっぱり階級



国枝慎吾(プロ車いすテニス)

9歳の頃、脊髄腫瘍を発病し車いす生活を送ることとなる。その2年後、母の勧めをきっかけに車いすテニスと出会う。当初はテニスよりも学校友人とバスケットボールを楽しむことに夢中であり、健常者の友人と共にスポーツを楽しむことで、現在最も武器となっている「車いす操作」を自然と身につけた。パラリンピックでは2004年アテネ大会でのダブルス金メダル、2008年北京、2012年ロンドン、そして2021年東京ではシングルスで金メダルを獲得。「俺は最強だ!」を座右の銘に、車いすテニス界で圧倒的なポジションを確立。2022年には全豪、全仏に続き、2022年7月、ウィンブルドン選手権で悲願の初優勝を果たす。これにより、車いすテニス男子シングルスで初めて「生涯グランドスラム」および「生涯ゴールデンスラム」を達成。2023年1月、世界ランキング1位のまま現役引退を発表。同年3月、前人未到の快挙と、長きにわたりパラスポーツの社会的認知度の拡大、スポーツの発展に大きく貢献したとして、国民栄誉賞が授与された。

制のスポーツにおいて、一番の壁というのは骨格や体格です。自分より体のサイズが大きい選手と戦っていくところが一番の難しさだと思います。

●国枝さん、引退表明されて、早速全日本監督から臨時コーチのオファーがあったという報道が出ておりましたが。

国枝 本当に何も考えないで引退してしまったのですが、現役中やりたかったことはたくさんあったので、それをやっていきながら、その延長線上に熱くなれるものを見つけていくことが必要かなって思っています。また、幸い、自分が思っている以上に色々なところからお話もいただいています。まずは自分に何が合うのかやってみないとわからないので。とにかくチャ

●井上さん、国枝さんの活躍はどんな風にご覧になっていましたか？

井上 そうですね、20年近くトップで戦われてきた中で、気になるところはやはりモチベーションの維持だったり、トレーニングに対する思い、あとは壁に当たる瞬間もあると思うんですね。その中で何十年もトップで続けてこれたのかというところをお聞きしたいです。

国枝 偉大なチャンピオンからそんな質問をいただけるなんてとても光栄なんです。が、やっぱり世界一になると誰の背中も見





井上尚弥(プロボクシング)

井上尚弥は高校時代に史上初のアマチュア7冠を達成。2012年に大橋ジムでプロ転向を果たすと、2014年当時日本人男子最速となるデビュー6戦目での世界王座獲得。プロ8戦目には当時の世界最速となる2階級を制覇。2017年9月9日、待望の本場アメリカのリングに上がり、KOデビュー。2018年からはバンタム級に転級し、5月25日のWBA世界バンタム級タイトルマッチにおいて1R TKO勝利で当時国内最速プロ16戦目での3階級制覇を達成した。

2022年12月、WBO世界バンタム級王者ポール・バトラーと対戦しKO勝利。この試合で新たにWBO王座を獲得、またWBA王座の8度目、WBC王座の1度目、IBF王座の6度目の防衛にも成功し、ボクシング史上9人目、バンタム級及びアジア人として初の4団体統一王者となった。

2023年7月、WBC・WBO世界スーパーバンタム級タイトルマッチで王者スティーブン・フルトンに8R TKOで勝利を収め、2冠奪取、4階級制覇を達成。日本ボクシング史上最高傑作との呼び声も高い『怪物〜モンスター〜』。

えなくなってしまうっていうのは、僕も気になる最初の時にすごく感じていました。2位3位だったら1位の背中を見て、あいつを倒すためにどう組み立てるかってことを考えながら練習を組んでいたんですが、やっぱり1位になった瞬間に見えなくなってしまうんですね。じゃあ、自分自身何をモチベーションにするかっていうと、やっぱり自分自身のスキルをいかに磨き続けるかっていうことに集中するしかないかなって思いながら、もう15・6年間1位でいたので、逆に言えば初心者の頃に戻ったというか、上手くなることの楽しさだなかなと思いつつ追求していくしかないかなと思います。逆と同じ質問を僕が聞きたいです。どういうモチベーションでこの長い間、しかも圧倒的じゃ

ないですか。

井上 そうですね、今のバンタム級という階級で続けるならば、自分は負けられないかなと思います。ただモチベーションが全然なくなってしまって、だからこそ、今年から1階級上げて、ベルトも手放して、ベルトを持っているチャンピオンから奪おうと、そういう選択肢をしました。

●最後にひと言ずつお願いできますでしょうか。

井上 今年も昨年以上の結果を残せるように、また精進して頑張っていきます。今後ともよろしく願います。

国枝 車いすテニスも若い選手が出てきていますので、引き続き皆様のご協力とご理解よろしく願います。

私たちは、私たちのために、 スポーツをするんだ。

大好きなスポーツを、全力で楽しみたい。勝ちたいけど、負けて気づくこともある。つらい時は、休んだっていい。だって、スポーツは、自分自身のためにあるのだから。大好きなスポーツを、大好きな仲間といっしょに。

さあ、子どもたちのスポーツへ。



健康にアイデアを

meiji

守るとは、挑むこと。

大切なものは、何ですか。

見つめる。支える。寄り添う。誓う。

大切なもののために、できることのすべてを。

私たちMeiji Seika ファルマは、
ワクチンによる予防から抗菌薬による治療まで
幅広いラインアップで、世界の感染症に挑み続けます。

これからも、ずっと。



Meiji Seika ファルマ株式会社



Photo by KENYU

© 2023 IMG

五十嵐カノア

(プロサーファー)

五十嵐カノア スペシャルインタビュー

史上最年少、アジア人初優勝など、数々の記録を塗り替えてきた五十嵐選手。

好調を継続する秘訣やサーフィンの魅力、来年のパリオリンピックに向けた意気込みを語っていただきました。

パリオリンピック出場権を獲得

Q. 2023年はパリ五輪の代表権を獲得されましたが、どのようなシーズンだったでしょうか？

A. 2022年はワールドランキング5位という結果でしたが、今年はさらに上を目指すため新しいことに挑戦しました。その一環として新しいコーチを迎え入れました。相性もよくシーズンの後半は競技の結果としてみるものも良くなってきたと思います。

今年は五輪にピークをあてた準備をしていて、調子はよいですが、思うような結果が出ず、フラストレーションがたまってしまった年でした。ただパリオリンピックの条件付き出場権を誰よりも先に獲得できた事は嬉しかったです。

自分がやっていることは間違いない

Q. 2021年の東京オリンピックの銀メダルから、昨年のワールドサーフィン

A. ゲームズの優勝と好調を維持する秘訣は？
自分がやっている事は間違っていないという事が証明できているんじゃないかと思っています。

もっともっと上を目指したいし、目指せるところと思っていますので、まだ満足していません。

**何度トレーニングをしている
タヒチがオリンピック会場**

Q. 来年のパリオリンピックに向けて、取り組んでいることはありますか？

A. 来年のパリオリンピックに向けて実践していることや準備していることはたくさんあります。

サーフィンの大会会場は、パリではなくタヒチなのですが、ちょっと特別な波のある場所です。そこでは技を連発するようなサーフィンではなくサイズが身長2倍3倍にもなるチューブ（バレル）という波のトンネルをうまく抜けると、よい点数が出ます。その波のサイズと、どれだけ長く深くチューブに入ることができるかが、ジャッジの基準になるようです。

チューブをぬける感覚は大好きですし、タヒチには何度もトレーニングに行っています。

波とのつながりと自分の使命

Q. オリンピックと通常のツアーとの違いはありますか？

A. オリンピックとチャンピオンシップツアーの違いは、ルール上の違いは無いと思います。

ツアーはサーフィンファンが見てくれていて、オリンピックはサーフィンファン以外の幅広い一般層の方も見られる。僕らにとってのもっとサーフィンをたくさんの人に知ってもらうよい機会だと思うんです。オリンピック種目に入れていただいていることは光栄なことですし、もっとメジャーなスポーツにしていく大きなチャンスだと思います。

メダルを2連続で手にできたら、今後のサーフィン業界が持てる可能性や、ジュニアへの影響も大きくなるのでは、と楽しみにしています。

オリンピックは4年に一度だけですので一発勝負的な集中力が必要です。日本チームとして期待が大きいだけに、頑張りがあります。

サーフィンの魅力は、とにかく気持ちよくて楽しいこと。波に乗った感覚やボードを自在に動かした時の爽快感。20年30年続けている人達も多いです。

試合では時間との戦いもあり、相手との駆け引きもあります。自然相手なので運もあります。だから波とのつながりが大切になるんです。いろんな要素の中で自分で判断しないといけない。自分との戦いです。

Kanoa Igarashi

1997年生まれ
アメリカ合衆国カリフォルニア出身

2021年、サーフィンが初めて正式種目となった東京オリンピックで銀メダルを獲得するなど数々の功績を残す。2022年には、ISA World Surfing Gamesを制し、自身悲願のワールドチャンピオンに輝いた。今後も、2024年のパリオリンピックに向けて、更なるタイトルと波を求め海外転戦を続ける。



Photo by KENYU
© 2023 IMG

戦歴／受賞歴

- 2022年 ISA World Surfing Games優勝
- 2022年 WCT Hurley Pro Sunset Beach準優勝
- 2021年 東京オリンピック銀メダル
- 2019年 WCT Corona Bali Protected優勝(アジア人初)
- 2018年 WSL Vans US Open of Surfing優勝
- 2018年 WSL Qualifying Series 3000 - Pro Santa Cruz 2018優勝
- 2017年 WSL Vans US Open of Surfing優勝
- 2016年 WCT Billabong Pipe Masters準優勝
- 2012年 USA Championship U-18 最年少優勝
- 2010年 NSSA全米ナショナルチャンピオンを獲得
- 2009年 NSSA年間最多優勝回数30勝達成



明日にいいこと。つなげる、つづける。

なぜ私たちは、暮らしを変えるのでしょうか。

何をすれば、未来にやさしくなれるのでしょうか。

セブン&アイグループは、みなさまと一緒に答えを探しています。

たとえ、ひとりではできないことでも

みんなでつなげれば、きっとできることがある。

ひとりのアクションは、小さくても、

みんなでつづければ、やがて未来は変わり始める。

毎日の暮らしの中で、みなさまと一緒にできることを。

CO₂排出量削減のために
店舗に設置した「太陽光発電パネル」



資源としてのプラスチック再利用に
取り組む「ペットボトル回収機」



地域のサポートとお買い物の楽しさも
お届けする「移動販売サービス」



詳しくはこちら

<https://www.7andi.com/sustainability/statement>



株式会社 **セブン&アイ** HLDGS.

日本プロスポーツ大賞の歴史



Part 2

1975年 ▶ 1977年
(昭和50年) (昭和52年)

日本プロスポーツ大賞は、我が国のプロスポーツ界の発展と振興に寄与するために1968年(昭和43年)に第一回の表彰が行われました。それから50年以上にわたって、プロスポーツ界で活躍する全ての選手及びチームの中から選ばれた大賞受賞者に内閣総理大臣杯を贈り、その功績を称えてきました。

今回は第八回の1975年から第十回の1977年までの大賞と殊勲賞の受賞者をご紹介します。

主な社会の出来事と合わせて、熱狂と感動を思い出してください。



写真：日刊スポーツ／アフロ

第8回 1975年(昭和50年)

大賞

広島東洋カープ (プロ野球)

1974年まで3年連続の最下位から、山本浩二、衣笠祥雄の活躍もあり、球団創設26年目にして初のリーグ優勝となりました。今やカープの代名詞赤いヘルメットはこの年から始まりました。

殊勲賞

村上 隆(男子プロゴルフ)

沢松 和子(テニス)

ガッツ 石松(プロボクシング)

1975年の主な出来事

3月：山陽新幹線岡山駅一博多駅間が開業
3月：大関 貴ノ花が初優勝
4月：ベトナム戦争、サイゴン陥落

5月：エリザベス女王が初来日
5月：登山家田部井淳子さんが女性として初めて、世界初のエベレスト登頂に成功



写真：読売新聞／アフロ

第9回 1976年(昭和51年)

大賞

王 貞治 (プロ野球)

1975年、球団創設以来初の最下位となった巨人は、張本勲の加入によりOH砲が躍進、長嶋茂雄監督のもとリーグ優勝に輝きました。王選手は35歳にして本塁打王、打点王の2冠を獲得。10月にはあのベープ・ルースの記録を抜く通算715号という記録を打ち立てました。

殊勲賞

具志堅 用高 (プロボクシング)

樋口 久子 (女子プロゴルフ)

阪急ブレーブス (プロ野球)

1976年の主な出来事

- 1月：クロネコヤマトの宅急便サービス開始
- 2月：ロッキード事件
- 4月：アップルコンピュータ設立
- 6月：アントニオ猪木vsモハメド・アリ異種格闘技戦
- 7月：モントリオールオリンピック

第10回 1977年(昭和52年)

大賞

王 貞治 (プロ野球)

前年、ベープ・ルースの記録を抜いた王選手は、後楽園球場で行われた対ヤクルト戦で通算756号のホームランを放ち、米大リーグのハンク・アーロン選手の記録を抜き、通算本塁打の世界新記録を達成しました。

殊勲賞

樋口 久子 (女子プロゴルフ)

具志堅 用高 (プロボクシング)

阪急ブレーブス (プロ野球)

1977年の主な出来事

- 1月：青酸コーラ無差別殺人事件発生
- 2月：ドリフ大爆笑が放送開始
- 4月：全日本柔道選手権大会で山下泰裕が史上最年少19歳で初優勝
- 5月：大学入試センターが発足
- 9月：ダッカ日航機ハイジャック事件
- 9月：国民栄誉賞創設。1回目の受賞者は王貞治選手が輝く



写真：読売新聞／アフロ

ともに、前へ。

あなたと考え、
あなたと悩み、
あなたと進む。
そしてあなたが喜ぶ時は、
あなた以上に喜びたい。



TVCM 公開中!

SMBCグループは、ラグビーを応援しています。

SMBCグループ

人を幸せにする技術だけで、
この星も幸せにできるだろうか。

森も、海も、風も、人も、
同じ空の下で生きている。つながっている。

私たちのイノベーションは、
人と地球、そのどちらも明るく照らすためにある。

みーんなが幸せじゃなきゃ。

挑む。
人と地球のために。



NTT 公式
ホームページ

